

国語

## (1) 国語

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する学習など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養ったり、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合ったりするなど、言語能力の育成を図るための工夫 (3) 情報活用能力の育成に向け、情報の扱い方に関する学習の充実を図るための工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 調べたことを報告したり、行事の案内や報告の文章を書いたりするなどの体験活動を通して、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や小学校等と関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等
3 その他	今日的な課題への配慮や工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点 (1) について 単元の初めのページの右下に吹き出しで生徒やキャラクターからの問いかけが示され、課題意識をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。〔例〕2年 (P16)</p> <p>●着眼点 (2) について ・論理的思考力、感性・想像力、伝え合う力等の言語能力のポイントが、各教材の「言葉の力」で示され、『「言葉の力」一覧』で3年間で身につける言葉の力を見通すことができるよう工夫されている。〔例〕1年 (P46、巻末) ・「広がる言葉」で教材と関連する言葉を学ぶことを通して、語感と語彙を豊かにすることができるよう工夫されている。〔例〕3年 (P171)</p> <p>●着眼点 (3) について 「情報と論理の学び」で、身近な例を題材にして、情報の扱い方が具体的に説明され、ポイントが示されている。また、資料編に思考ツールの活用方法が示されている。〔例〕1年 (P128～129、P280～281)</p>	<p>●着眼点 (4) について 「てびき」で学習の流れやポイントを示し、単元を見通してこれからの学習に生かすことを振り返ることができるよう工夫されている。〔例〕2年 (P44～45)</p> <p>●着眼点 (5) について 地域に住む人たちに、地域の魅力を紹介する文章を作成するなど、地域を題材にした単元が設定されている。〔例〕2年 (P68～72)</p> <p>●着眼点 (6) について 怪盗Xからの予告状を、文法を活かして解釈するなど、生徒の興味・関心を引く題材を通して、知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。〔例〕3年 (P48)</p> <p>●着眼点 (7) について ・1年生の初めの単元では、他の単元より大きな文字が使用されている。〔例〕1年 (P16) ・ページ下部に鎖のマークとともに関連する教科名が示されていて、他教科との学習内容の関連がわかるよう工夫されている。〔例〕1年 (P78)</p>
15 三省堂	<p>●着眼点 (1) について 各学年の初めの単元に「グループディスカッション」が設定され、対話的な学習を促進し協働的な学習の意欲を高めるよう工夫されている。〔例〕2年 (P38～41)</p> <p>●着眼点 (2) について ・言葉による見方・考え方を働かせ、考えを整理したり深めたりする方法を「思考の方法」として示し、各教材の学習活動の文脈に沿って活用できるように図解を中心に示されている。〔例〕1年 (P182～183) ・「読み方を学ぼう一覧」で、3年間の学習内容を確認し活用しながら、定着を図ることができるよう工夫されている。〔例〕3年 (裏表紙の裏)</p> <p>●着眼点 (3) について 「読み方を学ぼう」で、情報の扱い方について図解しながら具体例を示している。また、「思考の方法」を3年間通して巻頭に示し、定着を図るよう工夫されている。〔例〕1年 (P106～107、P16～20)</p>	<p>●着眼点 (4) について 「学びの道しるべ」で見通しをもち、キーワードを用いて振り返りの場面でまとめられるようにしている。また、「学びを広げる」で学習内容の活用方法が示されている。〔例〕1年 (P183)</p> <p>●着眼点 (5) について 地域の魅力について情報誌を作ったり発表会をしたりするなど、地域を題材にした単元が設定されている。〔例〕2年 (P230～235)</p> <p>●着眼点 (6) について 近年のアニメーション映画と和歌の関係についてのコラムや楽曲の歌詞など、興味・関心の高める内容の題材が設定されている。〔例〕3年 (P128～129、P224)</p> <p>●着眼点 (7) について ・1年生の初めの単元「読み方を学ぼう」で説明文の基本構造について小学校の学習内容で復習できるよう工夫されている。〔例〕1年 (P44) ・「生かそう」で「理科や社会などでレポートを書くとき」など他教科との関連が示されている。〔例〕1年 (P63)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点 (1) について 「学習活動の流れ」で最後に共有の場面を設定し、対話的な学びを通して学習がまとめられるよう単元が構成されている。また、「学びを生かす」で学んだことを実生活に生かす方法が示されている。〔例〕2年 (P118)</p> <p>●着眼点 (2) について ・本文の前に「学びナビ」を示し、何をどのように学ぶのか見通しをもったうえで、単元の学習に入れるよう工夫されている。〔例〕3年 (P76～77) ・巻末「言葉の自習室」で、情報の整理や表現に役立つ語彙や表現を紹介し、語彙の拡充とともに、論理的思考力の具体的手立てとなるよう工夫されている。〔例〕3年 (P320～323)</p> <p>●着眼点 (3) について 「学びナビ」で、その単元で活用する情報の扱い方を説明し、活用できるよう工夫されている。また巻末に「学びナビ一覧」を示し、年間を通じて活用できるよう工夫されている。〔例〕1年 (P103、P315)</p>	<p>●着眼点 (4) について 「みちしるべ」で目標と学習の流れを示し、振り返りで資質・能力が身についたかを選択と記述で確認できる。さらに、「学びのチャレンジ」で定着を確認できるよう工夫されている。〔例〕1年 (P183、P192～204)</p> <p>●着眼点 (5) について 職場体験でお世話になった方に敬語を使ってお手紙を書くなど、地域を題材にした単元が設定されている。〔例〕2年 (P67～71)</p> <p>●着眼点 (6) について 実用文としての広告を読んで料理の作り方の紹介文を書くなど、自主的に学習内容を活用する題材が工夫されている。〔例〕3年 (P110～113)</p> <p>●着眼点 (7) について ・1年生の初めの「学びをひらく」の単元で、小学校の学習内容の復習が示されている。〔例〕1年 (P15～33) ・「学びのチャレンジ」の題材に、他教科の内容が用いられ、活用方法が示されている。〔例〕2年 (P219～224)</p>
38 光村	<p>●着眼点 (1) について 対話的な学びから理解が深められるよう学習過程が工夫されている。〔例〕2年 (P102)</p> <p>●着眼点 (2) について ・「知識・技能」に示された指導事項を活用して各領域の言語活動を行うことで、「思考力、判断力、表現力等」を無理なく育成することができるよう単元が構成されている。〔例〕1年 (P42～57) ・ブックインブック形式の「語彙ブック」で描写・言動・思考の語句・話型・文型を整理して紹介し、日常的に活用し系統的に語彙が積み上げられるよう工夫されている。〔例〕3年 (P247～254)</p> <p>●着眼点 (3) について 巻頭の「思考の地図」で、情報の扱い方の活用を図るとともに、練習問題を通して習得できるよう工夫されている。また、「情報×SDGs」で、習得した知識・技能を社会生活の中で活用する方法が示されている。〔例〕1年 (P9、P138～139、P78～83)</p>	<p>●着眼点 (4) について 教材冒頭の見開きでは、右側の「学びへの扉」で学習の流れを示し、左側の「学びのカギ」で学習のポイントを示すことで、一目で学習の見通しをもち振り返ることができるよう工夫されている。〔例〕1年 (P184～185)</p> <p>●着眼点 (5) について インタビューや職場訪問で情報を集め、職業ガイドを作るなど、地域を題材にした単元が設定されている。〔例〕2年 (P54～57)</p> <p>●着眼点 (6) について 卒業式の黒板アートについての話し合いの動画を視聴後、進行役として意見を整理するなど、生徒の実生活に近い題材が設定されている。〔例〕3年 (P183～184)</p> <p>●着眼点 (7) について ・1年生の初めの単元「言葉に出会うために」で、小学校の学習方法の復習が示されている。〔例〕1年 (P16～20) ・巻頭「学習の見通しをもとう」で、他教科との関連が一覧表で示されている。〔例〕1年 (P6～8)</p>

## 2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称		総 ページ	(1) 内容別配当の分量						(2) 教材・資料等の分量					
			思考力、判断力、表現力等			知識 及び 技能	資料	その 他	図表 ・ グラフ の数	紹介 されて いる 本の 冊数	古典 の 作品 数	近代 文学 ・ 詩の 作品 数	二次 元 コード の数	三重 県に 関わる 記述 等
			話す こと ・ 聞く こと	書く こと	読む こと									
2 東書	1年	306	14	18	139	44	69	22	5	106	11	18	65	○
	2年	310	13	19	133	51	73	21	15	102	8	8	68	
	3年	322	15	19	137	30	99	22	7	109	19	9	60	○
15 三省堂	1年	365	11	25	130	42	120	37	12	93	17	9	91	○
	2年	373	14	22	146	40	114	37	12	95	32	7	88	
	3年	366	13	15	143	41	118	36	8	91	31	7	82	
17 教出	1年	358	11	29	156	48	72	42	6	86	15	10	47	○
	2年	374	11	28	171	48	72	44	5	80	12	10	52	
	3年	358	13	23	173	43	65	41	9	79	20	11	48	○
38 光村	1年	344	26	24	152	37	74	31	14	115	9	22	91	
	2年	344	19	24	135	57	80	29	8	110	10	9	82	○
	3年	340	16	18	133	47	97	29	10	110	17	11	68	○

### (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、二次元コードに資料を移すことでページ数を削減し軽量化されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、色の違いで区別する場合には、必ずマークや文字情報を加え、色以外の要素でも区別できるよう配慮されている。</li> <li>小学校で学習していない漢字には、教材ごとの初出箇所には振り仮名がつけられている。</li> <li>上下段の区切りや順番を明確にし、上段には学習手順、下段には具体例が掲載されている。</li> <li>「読むこと」の教材では、行数を数えやすいよう、各行の下に数字と点が付けられている。</li> </ul>
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、ページの開きが良い製本方式が用いられている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、色以外に罫線や形の違い等で区別できるよう配慮されている。</li> <li>古文教材の現代語訳は、色覚の特性による見え方の差が少ない青色が使用されている。</li> <li>上下段で情報を区別し、上段には学習の手順、下段には学習のポイントや参考となる情報が示されている。</li> <li>見開きで完結するようレイアウトが工夫されている。</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、裏写りのない再生紙が使用されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、形のうえでも区別できるよう工夫されている。</li> <li>イラストや図表などと文字の空きを十分に取り、識別できるようレイアウトにされている。</li> <li>学年の発達段階を踏まえ、1年生と2、3年生とでは基本の文字の字詰め、行数を変えるなど工夫されている。</li> <li>領域や学習の重点を示すアイコンやマーク、デザインを施し、内容の把握が容易となるよう工夫されている。</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書のサイズはB5判で、堅牢な方式で製本されている。</li> <li>カラーユニバーサルデザインの観点から、色に頼ることなく線の種類等で識別できるよう工夫されている。</li> <li>目的や用途に合わせて工夫された明朝体・ゴシック体、教科書体、UD書体を使い分けられている。</li> <li>マークや色を用いて、強調部分や領域の違いを明確に識別できるよう配慮されている。</li> <li>教材冒頭の右ページに学習の流れ、左ページに学習のポイントを示す構成にするなど、学習の用途に応じて紙面構成が統一されている。</li> </ul>

3 その他

	今日的な課題への配慮や工夫
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭の「未来への扉」では、SDG sに関連した「未来を考えるための9つのテーマ」が示され、国語の学習を通して自分や社会の課題と向き合うよう工夫されている。〔例〕1年（P9～10）</li> <li>・人種・国籍などの多様性や、多様な価値観を尊重する態度を養うことができる教材が取り上げられている。〔例〕2年（P102～109）</li> </ul>
15 三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の課題やSDG sを題材として、積極的に問題解決にあたるために必要な力を育成する教材が設定されている。〔例〕2年（P148～159）</li> <li>・防災に関する知識を備え、減災のために必要な準備をするなどを育成し、能動的に防災に対応する学習が設定されている。〔例〕1年（P148～157）</li> </ul>
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDG s教材「持続可能な未来を創るために」を全学年に設定し、一人一人が課題を見つけ考えを深める学習が設定されている。〔例〕3年（P222～230）</li> <li>・当事者意識をもって災害対策を考える教材が設定され、身近な生活に学習を活かすことができるよう工夫されている。〔例〕2年（P65）</li> </ul>
38 光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の創り手を育成するために、全学年にSDG sを題材とした特設教材「情報×SDG s」を設定し、今日的な諸課題を自分の問題として、多角的に考えられるよう工夫されている。〔例〕1年（P78～83）</li> <li>・災害時の情報収集・情報の読み取りについて考える教材を掲載し、防災意識が向上するよう工夫されている。〔例〕2年（P76～79）</li> </ul>